黒潮と大川をつないで

今年6月、大川村（宮城県石巻市）から防災講演会で黒潮町にお越しいただいた只野哲也さん（Team大川未来を拓くネットワーク）からの依頼で、大方中学校の皆さんが「おかえりプロジェクト」に参加されました。この催しは、8月14日（日）、大川小学校の中庭と校舎内に紙灯篭を飾り、「地元を離れた人たちが集える場所にしよう」と開催されたものです。この取組について、大方中学校・大塚明人校長より寄稿いただきましたので紹介します。

「大川地区と黒潮町は豊かな自然という点で似ています。大川もこんな風景でした。」

6月3日（金）、大方中学校の防災講演会に訪れた只野哲也さんには、入野松原などの風景が、東日本大震災前のふるさとと重なって見えたそうです。

只野さんは大川小学校の5年生だったとき、津波に飲み込まれたのですが、奇跡的に一命をとりとめました。現在は「Team大川未来を拓くネットワーク」という団体を結成して、震災遺構となった校舎保存のことや防災プログラム作りなどに取り組まれています。

大方中での講演の中では、一緒に活動している佐藤さんとともに次のことを語っていただきました。

震災前の大川の豊かな自然と日常の学校生活。「3.11」のこと。その後のあまりにつらすぎるできごと。そして中学、高校生活を経ての現在のこと。

【生徒の感想】

震災前の大川の写真を見たとき、とてもきれいな町だなぁと思いました。只野さんが大川と黒潮は似ている、落ち着くと言ってくれたことがすごくうれしかったです。「あれは防ぐことのできた被害だった」ということを聞いて、改めて防災学習に精一杯取り組んで、町内の一人でも多くの人の心に響かせたいと思いました。

只野さんは、子どもたちに向けて体験を語ったのは、この日が初めてでした。そのときの思いを、Facebookに次のように書かれています。

「私は子どもたちから本当に大切にしなければならないこと、そして震災伝承活動とTeam大川での活動を行ううえで重要なことに気づかされた。それは『家族という存在の大切さ』だ。何よりも私たちが伝え続けなければならないことであり、それに気づかせてくれたのは黒潮町の子どもたちだ。」

7月、只野さんからの依頼のメールが届きました。

「『おかえりプロジェクト』という催しを計画していて、8月14日に大川小に紙灯籠を飾って、地元を離れた人が集える場所にしたいので、その紙灯籠の文字を大方中の生徒に書いてほしい」というものでした。

7月末、大方中生徒の書いたメッセージが送られ、8月14日、おかえりプロジェクトが実施されました。

これからもTeam大川未来を拓くネットワークとのつながりは続きます。

前列左から2人目が只野さん